



1998年10月20日

(社) 日本都市計画学会
日本工業倶楽部会館
歴史検討委員会
座長 伊藤 滋 様

(社) 日本建築家協会 (JIA) 関東甲信越支部
支部長 服部 範二
保存問題委員会委員長 兼 松 紘一郎

日本工業倶楽部会館保存に関する要望書

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、日本工業倶楽部会館が、隣接する永楽ビルとの共同開発により改築されると発表されて以来、各界より保存を望む声がありましたことをご承知のとおりでございます。私共 JIA 保存問題委員会は、建築が街の中で景観を形成し、使い続けることにより都市の記憶装置として人の心にとどまり、その内部をも含めた空間体験が原風景として人々のアイデンティティを形作る源となり、それが慈しまれ語り継がれることこそ文化の継承に他ならないと考えております。したがって、建築は、生まれた瞬間から一所有者だけのものでなく、この建築を愛する多くの市民のものともなり、私達は、これを後世に伝えていく責務があるのではないのでしょうか。

この意味で私共は日本工業倶楽部会館の存続を強く望むものです。

丸の内にはありましては、過去に数多くのこの種の問題が起こり、レプリカによる形態保存等もなされております。これも都市の在り方の一つとして評価されるものの、やはりレプリカはレプリカに過ぎず、なんとか本物を残したいものです。この事は、危惧されている東京中央郵便局の存続にも関わることです。

この度、歴史検討委員会が設置され、日本工業倶楽部会館について審議されることとなりました。この事は都市の在り方を考えるとき画期的なことと存じます。又、インターネット・ホームページにて、情報公開される事も評価いたします。かつて、東京駅の取り壊し問題が起こった折、7名のメンバーによる委員会が設置され、その成果により現在の美しい丸の内の景観が形成されていることは、歴史の証明するところです。今回も私共は、その成果に期待しております。経済優先のスクラップアンドビルドの風潮を見直し、日本文化の厚みを支える方法、すなわち保存しながら創る方法をご検討下さいますようお願い申し上げます。

なお、JIA 関東甲信越支部並びに保存問題委員会と致しましても出来る限り様々な協力をさせて頂くことを申し添えます。

敬具